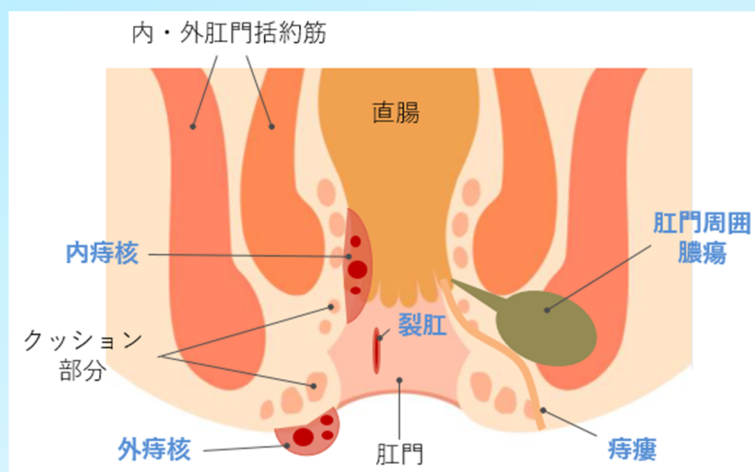
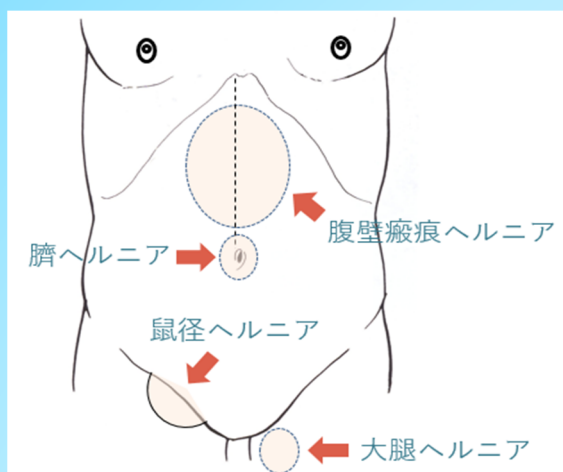


ヘルニア（脱腸）・肛門専門外来 開始のお知らせ ～外科～

鼠径ヘルニアをはじめ、腹壁癒痕ヘルニア、大腿ヘルニアや臍ヘルニアなどのヘルニア疾患や、痔核などの肛門疾患をより専門的に診察するため、令和3年4月より**毎週、水曜日の午後(13:00～14:30)**に「**ヘルニア（脱腸）・肛門専門外来**」を開始いたします。



「太ももの付け根がふくらむ」や「お尻から何か飛び出す」など、お困りのことがございましたら、当院のヘルニア・肛門専門外来へお気軽にご相談してください。

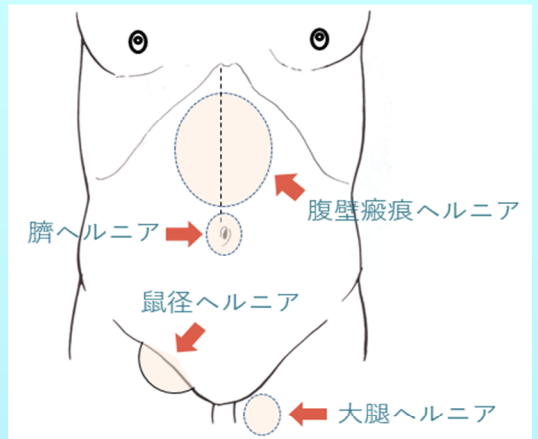
※ ヘルニア・肛門の診療は通常外科外来でも行っております。
都合のつかない方や急遽、受診希望の方は外科外来を受診下さい。

大阪医科薬科大学三島南病院 一般・消化器外科
【担当医師】 阿部信貴、出原啓介、井上善博

ヘルニア（脱腸） 専門外来

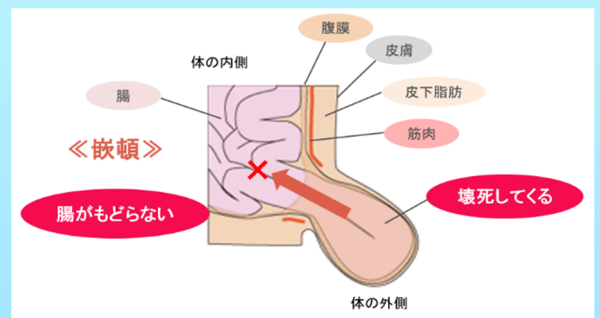
【ヘルニアについて】

「ヘルニア」と聞くと腰のヘルニアを思い浮かべるとと思いますが、鼠径ヘルニアというのは、本来ならお腹の中にあるはずの腹膜や小腸などの臓器が、筋肉の間から皮膚の下に出て瘤のようにふくれる病気です。昔から、俗に「脱腸」と言われてきました。その腹壁のヘルニアの中では「鼠径ヘルニア」が最も多く、立ち上がった時、お腹に力を入れると、鼠径部といわれる太ももの付け根の部分がはれてきます。初期のころは、横になったり、押さえると凹みます。しかし、大きくなると痛みを伴ったり、押さえても戻りにくくなります。さらにひどくなると、腸がはまり込んで戻らなくなり、「嵌頓」という状態になります。腸が壊死してしまうので緊急手術が必要になります。

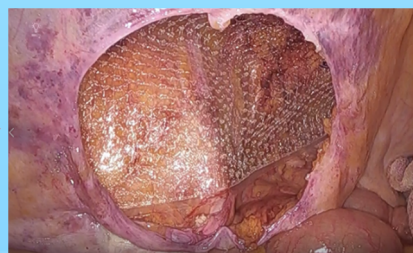
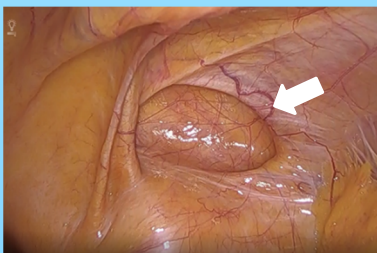


【治療法は？】

成人の鼠径ヘルニアは自然と治ることはなく、手術のみが唯一治せる治療です。麻酔は、腰椎麻酔から全身麻酔まで患者様の状態に応じて行います。手術では、弱くなった筋肉の部分にメッシュといわれる人工膜を使って補強します。手術方法には、**腹腔鏡下鼠径ヘルニア修復術(TAPP法とTEP法)**や従来から行われている**鼠径部切開法**があります。当院では、腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術を導入後、年々



実施件数も増加し、現在では約 9 割以上の患者さんに行っています。小さい創のため手術後の痛みは少なく、傷も目立たないため、手術を受けられた患者さんの満足度は非常に高くなっています。また、鼠径ヘルニアだけでなく、以前に行った手術の傷が弱くなって腹膜や腸が脱出する「腹壁癒痕ヘルニア」に対しても、腹腔鏡下手術を積極的に行っています。ヘルニアの手術は短時間（45～70分）で、短期入院（2～3日）が標準ですが、日帰り手術もヘルニアの状態やご希望に応じて行っております。腹腔鏡下ヘルニア根治術では、ヘルニア門を確認し、ヘルニア門をメッシュを使用して面をふさぎます。（下図）



【手術後は？】

手術後は、翌日から食事や歩行が可能です。シャワーやお風呂に入ることできます。また、退院直後から事務や軽作業の仕事は可能です。ただし、重い物を持つことやスポーツなどでお腹に強い力を入れるのは、手術後 1 か月ぐらいは避けて下さい。鼠径ヘルニアの手術は、腹腔鏡下手術の登場によって、患者さんの負担の少ない手術が実現可能になりました。また手術後の痛みが少ない点や、短時間で終わること、退院後早期に社会復帰が可能なことなど利点の多い手術です。

「太ももの付け根がふくらむ」や「以前の傷がふくらむ」など、お困りのことがございましたら、当院のヘルニア専門外来へお気軽にご相談してください。

肛門専門外来について

肛門の病気は恥ずかしさから、つい受診が遅くなりがちです。しかし、いつまでも放っておくと、症状が悪化し治療が困難となる場合があります。そうなる前にまずは一度、**肛門専門外来を受診してみてください。**

【肛門の3大疾患】

いぼ痔（内痔核、外痔核）、きれ痔（裂肛）、あな痔（痔瘻）が肛門の3大疾患とされています。

■ 痔核（内痔核・外痔核）

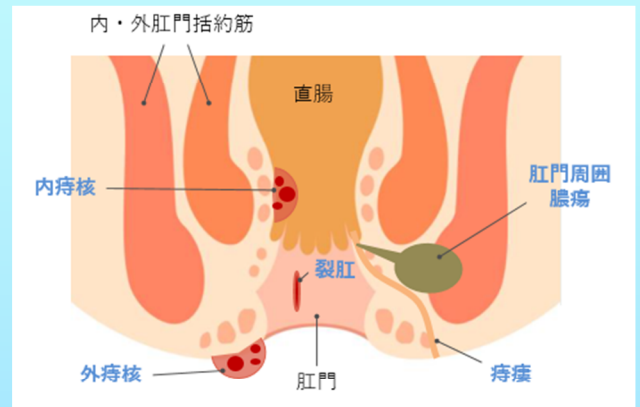
「痔核」は、便秘による排便時のいきみ、妊娠出産、長時間の座りっぱなしや立ちっぱなしの姿勢を続けることが原因となります。肛門のクッション（血管の集まり）がはれて大きくなり、引き伸ばされることで、出血したり肛門の外に出たりするようになります。

■ 裂肛

「裂肛」は、便秘による硬便や下痢便の勢いなどで肛門の出口付近が切れたり、血流循環が悪くなるのが原因で、肛門の皮膚が切れて起こります。

■ 痔瘻、肛門周囲膿瘍

「痔瘻、肛門周囲膿瘍」は、便秘・下痢、ストレスや疲労が重なって肛門の免疫力が落ちていることが原因となり、肛門付近の肛門腺が化膿することです。



【治療法は？】

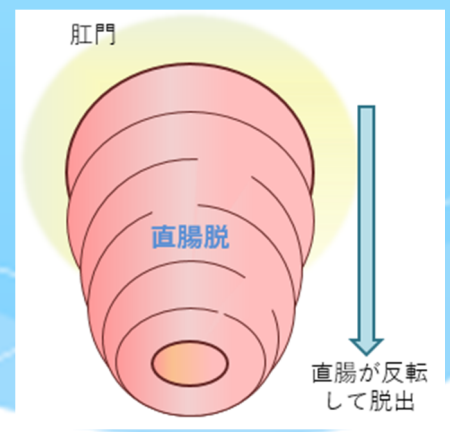
肛門疾患は全ての患者さんが手術を必要というわけではなく、生活習慣や薬による保存的療法にて改善する患者さんも多くおられます。手術が必要な際でも、ほとんどの場合、15～45分ほどで終わる短時間の手術です。より根治度の高い、疼痛の少ない、機能を温存した手術を心掛けており、入院期間は術後1～3日ほどです。日帰り入院手術も肛門の状態やご希望に応じて行っております。

【手術後は？】

手術後は、術当日から食事や歩行が可能です。シャワーやお風呂に入ることもできます。また、退院直後から事務や軽作業の仕事は可能です。ただし、重労働やスポーツなどは、手術後1ヵ月ぐらいは避けて下さい。

■ 直腸脱

「直腸脱」は、肛門から直腸が脱出する病気です。肛門括約筋が緩むことや便秘による腹圧上昇が原因となり、高齢者に多くみられます。当院では、手術侵襲の少ない腹腔鏡による手術を行い、術後3-5日で退院が可能となります。



肛門疾患の手術は、注射療法や腹腔鏡手術により、患者さんの負担の少ない治療になりました。また治療後の痛みが少ない点や、短時間で終わること、早期に社会復帰が可能なことなど利点の多い手術です。「便に血が混じる」、「おしりから何か出る」や「おしりが痛む」など、お困りのことがございましたら、当院の肛門専門外来へお気軽にご相談してください。